佐原の町並み
かわら版

第３１号
平成13年３月
発行　小野川と佐原の町並みを考える会
佐原町並み保存会

平成の伊能忠敬おかえりなさい

今から二百年前、伊能忠敬が歩いたように、日本全国を約二千間にわたり歩いて来た「伊能ウォーク」の一団が、二〇〇一年の元旦東京、翌二日に佐原へ帰って来ました。

一九九八年（平成十年）十一月文化会館において、加藤剛さんを隊長として「伊能ウォーク」平成の伊能忠敬の出立式が行われてから二年余り、忠敬の足跡をたどりってくるということで、町並みを考える会、町並み案内ボランティアの会をはじめ多くの市民が、正月二日伊能忠敬記念館で出迎え、市役所までの最後の一キロを平成の伊能忠敬の気分で歩きました。

市役所到着後、暖かい甘酒をいただき、その後伊能図の献呈式が行われ、私たち市民の盛大な拍手のもと、本部隊の解団式を終えました。

この本部隊のお土産は、全国各地の首長の署名の入った地図だけではなく、行く先々に伊能忠敬の偉業を改めて知る機会と、その伊能忠敬を育んだ佐原の名を全国にとどめて来たことでした。

おかげでこのところ、新潟県、北海道、山陰地方と、伊能ウォークに参加した人が、佐原を見てみたいと来佐する観光客も増えています。

記念館前で本部隊員をお迎え

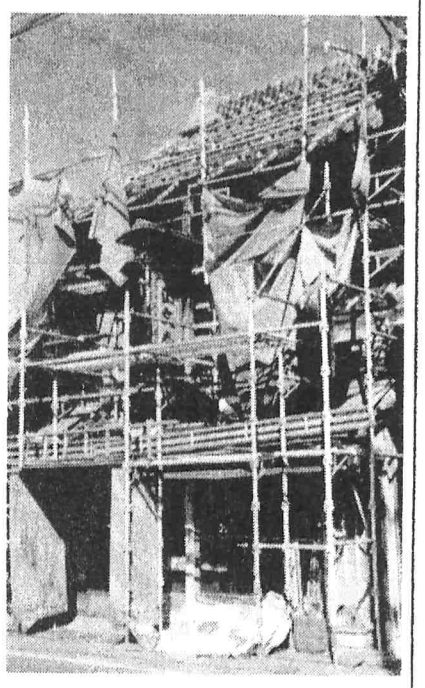
全行程一万一千キロ、全国各地の参加者述べ十七万人に及ぶ日本一周を成し遂げました。本部隊員十九名の皆さんが訪れた全国四百三十一の市町村の首長等が署名した「伊能小図」をお土産に佐原へ帰ります。

保存に向けて修理・修復が進む

町並み保存に向け、歴史的建造物の修理・修復が進められ、小野川沿い、香取街道を歩くと修復後の家屋が目に入ります。

現在、正文堂書店が特徴ある丸瓦を生かした屋根の修復を、植田屋荒物店が大規模修理を、倉持家の全面、徳島屋の土蔵等が進行中です。修理・修復は、お住まいの方は勿論、行政その他の方々の協力と目に見えないご苦労があります。

私たち市民が祖先の残してくれた歴史の息づく素晴らしい文化財を誇りに思い、また観光客とって「ホットする町並み、心を癒してくれるまち」として、このように少しずつ、町並みの景観が充実していくことは喜ばしい限りです。


修復中の正文堂書店

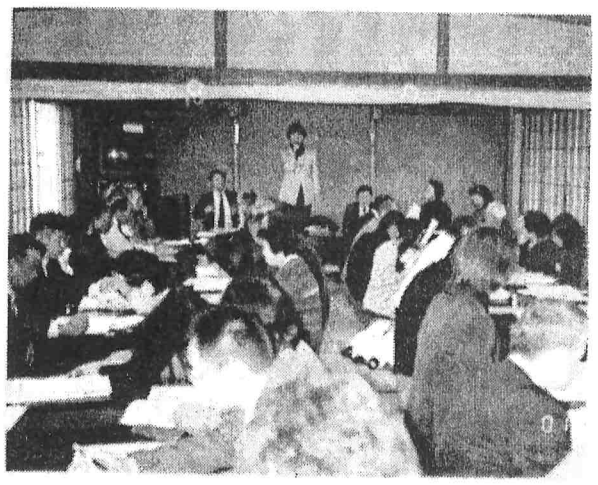
県主催・ボランティアガイド研修佐原で開催

千葉県観光コンベンション課主催で十二年度の研修会が、二月一日（木）佐原で開催された。

県観光協会役員と県内ボランティアガイド六団体及び九市町の観光課職員等約六十名が参加しました。

小雨の中、午前中に町並みや忠敬記念館、三菱館等を案内。午後はラフレシアで研修会を実施。横浜シティガイド協会長嶋田昌子氏を講師に迎え「ボランティアガイドの広がり」という講演が行われた。〝学習なきところにガイドはない〟という言葉が印象に残りました。講演後は活発な意見交換がなされたが、主な話題は次の事項でした。

一、観光ガイドに対する行政支援について
二、後継者の育成について
三、市内商業者との提携とまちの活性化について
四、組織の運営と会長の役割について
五、会員の増やし方について
六、佐原のボランティア活動の状況について


県内各地のボランテイア団体講演を聞く

BS列車・どーも君号が佐原へ

二月十日（土）、中央案内所前と佐原駅前でＮＨＫＢＳのロケが行われ、ゲストの島倉千代子さんが来佐した。これは当日夜に、千葉県ブラボー大会の公開録画が銚子で開催されたが、そのＰＲでした。

若手メンバーの慈愛会よりの、佐原囃子が演奏される中で、ロケが行われたが、近所の人や通行中のたくさんの人に囲まれた島倉さんがニコニコと談話。子供達には「オッハー」と元気に呼び掛けたり、握手したりする姿は、テレビで見るよりずっと素敵でした。

川岸での島倉さん
ロケ快調

町並ばなし話

川岸に正上さんの建物がそのまま残っていることに感激していた中年のご夫婦・・・。

理由（わけ）を聞くと、まだカメラが誰でも手軽に持てる時代でなかった三十数年前、一人旅をしていた時正上さんをバックに撮った写真を送ってくれたのが縁で文通が始まり、その後結婚したとのこと。

一枚の写真が、それも佐原の町並みがキューピット役をしたというほのぼのした話を聞くことができました。